



新日鐵住金ステンレス(株)  
取締役常務執行役員 技術部長  
(現 取締役常務執行役員 製造  
本部副本部長)

梁井 和博

Nippon Steel & Sumikin Stainless  
Steel Corporation  
Director, Executive Officer,  
General Manager, Production  
Division

Kazuhiro YANAI

# ステンレス鋼特集の発刊にあたって

## Remarks on Special Issue on Stainless Steel

日頃あまり意識されることはないと思いますが、改めて周りを見わたしてみると、ステンレスは私たちの生活に密着した数多くの部分に使われている重要な材料であり、その用途もますます広がっていることに気づくと思います。例えばステンレスパネル製の貯水タンク。中央に加工を施した四角いステンレスパネルを組み合わせて作る、銀色に輝く貯水タンクを建物の屋上や周辺、ゴルフ場など様々な場所で目にしますが、これは外観の美しさと合わせ、大震災時に他の貯水タンクに比べ損傷が著しく少なかったことから近年普及が進んでいるものです。また、日頃見えない部分ですが、自動車用の排気ガス系統にもステンレスが使われています。20年ほど前までは、アルミめっき鋼板が主流でしたが、環境対策が進み自動車の排気ガスが高温になるのに伴い、耐熱性と耐食性に優れたステンレス鋼が使われるようになりました。洗濯機の洗濯槽にもステンレスが用いられていますが、これも単にステンレスの清潔性だけではなく、洗濯槽の強度アップによる大型化に寄与しています。電車もステンレス車両が主流を占めるようになり、軽量化と耐久性の向上が図られています。

このように、私たちの生活水準の向上、利便性アップ、社会的なリスク管理や、省エネルギー、環境改善などを進めるための基盤材料として、ステンレスは重要な役割を果たし発展してきました。今後、地球環境保護の観点からもますます省資源・リサイクル・高耐久型社会に移行してゆく必要がありますが、ステンレスはその材料特性と高いリサイクル性から、この社会的ニーズに大きく貢献できる材料であり、今後とも更に需要の拡大が期待されます。

新日鐵住金ステンレスでは“ステンレスで社会に貢献”を基本理念とし、時代の要求に応えるために、適切な性能を有する安定した品質の材料を、安価に安定供給すべく、材料開発、製造技術開発、利用技術開発を積極的に進めお客様に提案してまいりました。このたび、それらの一端を新日鉄技報の特集号としてまとめました。限られた紙面ではありますが、ステンレスの市場動向と、これまでの商品、製造技術の進歩を振り返るとともに、薄板、棒線、厚板各分野における材料開発、製造技術開発、ステンレス鋼を有効にお使い頂くための利用技術、評価技術について掲載致しました。また、リサイクル型社会への貢献の一貫として、製造過程で発生するスラグの再利用技術についても紹介させて頂いております。

新日鐵住金ステンレス(NSSC)は新日鐵グループのステンレス部門として、お客様の御要望に応え、ステンレスで社会貢献することを目標に、今後とも新商品、ソリューション技術の提案に全力で取り組んでまいります。どうか、今後ともより一層のご指導、ご助言を賜りますようお願い致します。

日頃のご愛顧にあらためて感謝申し上げます。